

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	社会福祉概論 (Introduction to Social Welfare) 392079-14400					担当教員	米 山 宗 久 (ヨネヤマ ムネヒサ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL / 外部講師招聘科目 / 資格対応科目								

① 授業のねらい・概要									
<p>社会福祉の現状・制度や政策を幅広く、さらに総合的に学修することにより、今後の福祉政策の課題について理解するとともに、福祉現場の専門職を招聘して実際の現場がどのような現状なのかについても学修することを目的とする。さらに具体的な改善策を提言することを目標とする。授業では、社会福祉の基本理念や歴史のほか、制度のしくみ・しごと、援助方法、福祉教育や専門職について学修する。さらに、高齢者福祉、障がい者福祉、生活保護、子ども家庭福祉、地域福祉の各領域の現状と課題を明らかにする。学修内容の理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、外部講師を招聘する。社会福祉主事任用資格に対応した科目である。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
<p>職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力 / コミュニケーション能力を養う。</p>									
③ 授業の進め方・指示事項									
<p>教科書に基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。</p>									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
<p>社会学、ボランティア論、家族社会学、高齢者と社会政策の単位を取得していることが望ましい。</p>									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
<p>(i) 社会福祉を取り巻く状況や歴史を理解する。  (ii) 社会福祉の法律や財政を理解する。  (iii) 社会福祉の機関と施設・援助方法を理解する。  (iv) 個別の社会福祉施策を理解する。  (v) 社会福祉を支える人々やこれからの課題を理解する。</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
<p>山縣文治・岡田忠克(2016)『よくわかる社会福祉（第11版）』ミネルヴァ書房</p>									
⑦ 参考図書・指定図書									
<p>授業において紹介する。</p>									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%		20%		10%		100%
(i) 社会福祉を取り巻く状況や歴史を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(ii) 社会福祉の法律や財政を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(iii) 社会福祉の機関と施設・援助方法を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(iv) 個別の社会福祉施策を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
(v) 社会福祉を支える人々やこれからの課題を理解する	10%	4%		4%		2%		20%
フィードバックの方法	小レポートはプレゼンテーションを行い、小テストは解説を行う。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
社会福祉主事任用資格の取得及び福祉住環境コーディネーターを目指すなど、公務員や福祉関係の職業を希望している学生は必ず受講してもらいたい。小レポートと小テストを合わせて、7回程度行う。外部講師招聘時は予習として課題を提示する。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	社会福祉の基本概念	テキスト	社会福祉の考え方やライフステージごとの課題を理解	30分
2	社会福祉をとりまく状況	テキスト	少子高齢化・家族・地域社会の変化を理解	60分
3	社会福祉の歴史と展開	テキスト	社会福祉の歴史と諸外国の動向を理解	60分
4	社会福祉の仕組みと運営(1)	テキスト	社会福祉の法律と仕組みを理解	60分
5	社会福祉の法律と仕組みを理解	テキスト	社会福祉サービスの利用と提供システムを理解	60分
6	社会福祉の機関と施設(1)	テキスト	福祉事務所と児童相談所を理解	60分

7	社会福祉の機関と施設(2)	テキスト	社会福祉協議会と社会福祉法人を理解	60分
8	小テスト	自筆ノート	1回～7回目授業のまとめ	60分
9	社会保障・公的扶助	テキスト	生活保護や医療制度・年金制度を理解	60分
10	子ども家庭福祉	テキスト	子ども・子育て支援制度や児童福祉施設を理解	60分
11	高齢者福祉	テキスト	介護保険制度や地域ケアシステムを理解	60分
12	障害者福祉	テキスト	障害者総合支援法や障害者プランを理解	60分
13	地域福祉	テキスト	地域の組織化やまちづくり・地域福祉計画を理解	60分
14	社会福祉を支える人たち	テキスト	社会福祉専門職と民生委員児童委員を理解	60分
15	小テスト	自筆ノート	9回～14回目授業のまとめ	60分

⑪ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。小レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、グループワーク、外部講師を招聘してディスカッションを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
<p>行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。</p>

#### 実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、社会福祉六法の基本的支援や政策、対象者別の意義や目的、活動内容や影響力、さらに活動における課題を学生に伝えることができる。

たとえば、生活保護制度の最低基準算定、救護施設での支援、DVにおける保護施設の対応、介護保険制度などの必要性を伝えることができる。さらに実体験として地域住民主体の放課後子ども教室の必要性も伝えることができる。

また、介護保険計画や高齢者保健福祉計画においても、介護の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。